

事業概要

団体名	社会福祉法人 大阪ボランティア協会	総合評価 A	評価基準（総合評価） S （非常に高く評価できるもの） A （高く評価できるもの） B （一定の水準にあるが一部課題のあるもの） C （一定の水準にあるがかなり課題のあるもの） D （全般的に多く課題のあるもの）
事業名	災害時のスペシャルニーズ支援事業 ～災害時における“とっておきの配慮の求め”（＝スペシャルニーズ）に応える団体の受援力向上事業～		
実施期間	平成30年4月1日～平成31年3月31日		
助成（実績）額	4,978,000円		

事業概要	事業実績	事業を実施したことによる成果
<p>災害ボランティアセンターには、被災した市民からのニーズが多数寄せられ、またボランティアが殺到する傾向にあり、災害時にとっておきの配慮（＝スペシャルニーズ）の必要な人への対応が困難な状況に陥りやすい。一方、普段から支援活動に取り組む NPO や各種グループ・団体においては、危機対応の経験が不足していたり、具体的に地域で活動する手立ておよびボランティアや NPO の受け入れノウハウが明確になっていない現状がある。</p> <p>本事業は、スペシャルニーズに取り組む団体が、被災をして組織体制を立て直す際に、ボランティア（プロボノ含む）や災害支援 NPO 等を受け入れる可能性や課題を明らかにすることを目的としている。災害時には職務としての支援（フォーマル支援）に加えてボランティアによる支援（インフォーマル支援）も必要であり、本事業では特にインフォーマル支援のあり方を検討する。そして災害時のスペシャルニーズ対応の課題として従来から指摘されている【障がい者・難病者支援】【こども支援】【外国人支援】の3テーマを取り上げ、団体の災害支援対応やボランティア受け入れの「モデル」を作成する。</p> <p>課題をあきらかにして「モデル」を作成し、団体の災害支援やボランティア受け入れ担当者の研修メニューを開発・実施するところまでが、3年間で到達すべきゴールと考えている。</p>	<p>1. ヒアリング調査 当初の計画になかったが、大阪府北部地震や平成30年7月豪雨（西日本豪雨）が発生したため、実災害でスペシャルニーズ支援を行っている団体のヒアリング調査を行った。 調査対象： ・豊川南小学校避難所（大阪府北部地震で、避難者の約9割が外国人で、箕面市国際交流協会が支援に入った）、枚方市社会福祉協議会、摂津市社会福祉協議会、茨木市社会福祉協議会、箕面市社会福祉協議会（大阪府北部地震で、要配慮者支援を行った）、岡山 NPO センター、NPO 法人だっぴ、岡山次世代スクール協会（西日本豪雨で、子ども支援活動を行った）</p> <p>2. 実践研究会 （1）障がい者・難病者支援＜参加団体：11団体＞ ※3年目 第9回：大阪府北部地震をうけて見えた課題や情報の共有と分析、ガイドブック作成に向けた検討① 第10回：インクルーシブ防災と地域の助け合い（話題提供：AJU 自立の家 水谷真さん） ガイドブック作成に向けた検討② 第11回：3年間の事業を振り返るワークショップ ガイドブック作成に向けた検討③、来年度以降の事業について （2）こども支援＜参加団体：7団体＞ ※3年目 第9回：西日本豪雨災害支援調査結果の共有、ガイドブック作成に向けた検討① 第10回：ガイドブック作成に向けた検討②、来年度以降の事業について （3）外国人支援＜参加団体：10団体＞ ※2年目 第4回：大阪府北部地震における活動事例紹介（話題提供：箕面市国際交流協会 岩城あすかさん） 第5回：大阪府北部地震をうけて見えた課題や情報の共有と分析 第6回：大阪府北部地震に関する外国人当事者アンケート調査結果の共有（話題提供：にほんごサポートひまわり会 斎藤裕子さん）、ガイドブック作成に向けた検討① 第7回：ガイドブック作成に向けた検討②、来年度以降の事業について</p> <p>3. 研修 （1）障がい者・難病者支援 テーマ：地域と交流し地域に根付く 災害にも強い支援団体のつくりかた 日時：2019年2月2日（土）13:30～16:00 場所：市民活動スクエア「CANVAS 谷町」 講師：NPO 法人ゆめ風基金 事務局長 八幡隆司さん 参加者：26人 （2）こども支援 テーマ：災害が起きると私たちの団体や子ども達はどのような？ 日時：2019年2月10日（日）10:00～12:00 場所：市民活動スクエア「CANVAS 谷町」 進行役：こども支援部会コーディネーター 水谷綾さん 参加者：44人</p>	<p>1. ガイドブック作成やフォーラムなど、広く一般を対象とする事業は、事務局だけでなく研究会メンバーといっしょに企画・運営・作成することができた。災害時のスペシャルニーズ支援を広げるためには、各分野で活動する当事者が変革の主体になる必要があるが、その中核となる人材の育成ができた。</p> <p>2. 研修やフォーラムのアンケート回答において、「平時から」「準備」「つながりづくり」という言葉が多く見られた。普段から準備をし、支え合うつながりづくりに対する意識を高めることができた。また「国や自治体に対して期待していたが、十分な支援は期待できないことがわかった」というニュアンスの回答も目立った。災害時には行政も被災して機能が麻痺することを理解し、行政頼りではなく主体的に災害対応を考える意識を高めることができた。</p> <p>3. 団体の受援力向上に向けて、課題やポイントの整理ができ、ガイドブックや研修などで共有・発信することができた。今後、災害時のスペシャルニーズ支援を広げる基盤を構築することができた。</p>

	<p>(3) 外国人支援 テーマ：日本語学習者のための防災～私たちにできること～ 日時：2018年7月7日（土）10:00～12:00 場所：大阪市立総合生涯学習センター 講師：多文化共生マネージャー全国協議会 下村成子さん 参加者：27人</p> <p>4. フォーラム テーマ：災害時に孤立する人を生み出さないために～障がい者・難病者、子ども、外国人等の支援団体の備え～ 日時：2019年3月9日（土）14:00～16:30 場所：大阪府社会福祉会館 参加者：78人 内容： (1) 事例紹介 ・障がい者・難病者：「つながる、巻き込む、被災障がい者救援活動」日常生活支援ネットワーク 椎名保友さん ・子ども支援：「防災カフェと親子防災部で日常に防災を」にしよどにこネット 福田留美さん ・外国人支援：「被災外国人のための大阪府北部地震」箕面市国際交流協会 岩城あすかさん (2) グループディスカッション (3) 全体ディスカッション</p> <p>5. ガイドブック作成 内容：災害時の特別な配慮の内容、災害時の危機管理のあり方、外部支援者の生かし方などをまとめたガイドブックを作成した。執筆・編集は実践研究会で行った。 仕様：A4、16ページ、カラー 作成部数：2,000部×3分野＝計6,000部 配布先：研究会関係者、アンケート回答団体、社会福祉協議会、行政機関、おおさか災害支援ネットワーク、ヒアリング調査対象団体、全国災害ボランティア支援団体ネットワーク、協会関係者、配布用、協会関係者、ガイドブックに掲載した団体、研修講師、フォーラムゲスト、予備 ※研修やフォーラムなどの参加者にはPDFファイルをメール配信のうえ、希望者に郵送する。</p> <p>6. ウェブサイト作成 http://www.osakavol.org/01/saigaibousai/sn/</p>	
--	--	--



災害時のスペシャルニーズフォーラム 2019「災害時に孤立する人を生み出さないために～障がい者・難病者、子ども、外国人等の支援団体の備え～」の様子



災害時のスペシャルニーズ支援ハンドブック「子ども編」「外国人編」「障がい者・難病者編」

※修正があれば朱書き訂正の上ご提出ください。また写真の挿入も可能です。(1～2枚程度)